

令和6年  
2024年

11月19日  
火曜日

第11598号

# 食肉速報

— THE DAILY MEAT NEWS —

昭和51年5月19日  
第三種郵便物認可

購読料 (前納)  
年間 82,080円  
(税込み)  
6カ月 42,120円  
(税込み)

本紙は関連企業・団体との  
タイアップ企画記事を含みます

【発行所】株式会社食肉通信社  
<https://www.shokuniku.co.jp/>

東京支社  
〒103-0001 東京都中央区日本橋小伝馬町18-1  
TEL03-3663-2011 FAX03-3663-2015

大阪本社  
〒550-0005 大阪市西区西本町3-1-48  
TEL06-6538-5505 FAX06-6538-5510

九州支局  
〒812-0029 福岡市博多区古門戸町3-12  
TEL092-271-7816 FAX092-291-2995



日本食肉協会が全国会議栃木県大会を開催した……P2

## 注目のヘッドライン

### 日本食肉協会が全国会議栃木県大会開催、肉屋を次代に引き継ぐため議論

一般社団法人日本食肉協会は17日、令和6年度全国会議栃木大会および第3回事業推進委員会を宇都宮市のホテルニューイタヤで開催した。

…詳細はP2

### 畜産部会で新たな家畜改良増殖目標の検討状況説明—農水省

…詳細はP3

- ▶ 日本食肉協会が全国会議栃木県大会開催、肉屋を次代に引き継ぐため議論……P2
- ▶ 畜産部会で新たな家畜改良増殖目標の検討状況説明—農水省……P3
- ▶ 通期見通し変更なし、スターゼンが2025年3月期決算説明会を開催……P4
- ▶ スターゼンがファミリーデーイベントを加世田工場で開催……P5
- ▶ カナダポークがカナダミート協議会所属の組織に、新プレジデントにホワイト氏……P6
- ▶ 大阪市場で徳島県肉牛共励会を開催、丸富精肉店が和牛、交雑とも最優秀賞牛を購入…P6
- ▶ 食肉販売動向調査「24年上半期実績と下半期の見通し」⑤「量販店の動向」……P7
- ▶ 松のや、史上最重量級のロースかつ「極厚ロースかつ定食」発売……P7
- ▶ 【輸入副生物現物相場】気温同様に引き合いは地域でまちまち、年末にかけてジリ高か……P8
- ▶ コーンテック、「BROCK飼料貯蔵タンク」取り扱い開始……P8
- ▶ 【資料】日本食肉流通センター週間……P9
- ▶ 【東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数】18日……P10
- ▶ 【各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場】18日…P11



Nipponham Group  
たんぱく質を、もっと自由に。

食肉施設の設計・施工・コンサルタント

— 食肉業界をリードする —



〒110-0016 東京都台東区台東4-20-5  
☎03-3834-1561(代) <https://hanaki-eng.co.jp/>

## 日本食肉協会が全国会議栃木県大会開催、肉屋を次代に引き継ぐため議論

一般社団法人日本食肉協会は17日、令和6年度全国会議栃木大会および第3回事業推進委員会を宇都宮市のホテルニューイタヤで開催した。同協会の布川勝一会長(上写真)は全国会議の冒頭、「消費者の消費行動は多様化し、皆が同じものを求める時代ではなくなった。ネット販売などで競争相手は増えるばかりで、体力勝負となる状況にある中、想像力あふれる商品開発が欠かせない。ほかにはない“刺さる”商品が必要だ。お客さまにとって最適・最良のメニューを提案することが、肉のプロであるわれわれの誇りであり、役割でもある」「生き残っていくため、また次代に引き継ぐため、会員相互のコミュニケーションを促進し、互いに意識を高め合う、そんな価値のある会議にしたい」とあいさつした。

主テーマを「食肉流通の課題とその対応」、サブテーマを「お肉で人を幸せにする!! 肉屋をもっと楽しくする! 次世代に引き継ぐために今できること」とするグループディスカッションでは、全国各地の関係者同士で活発に議論が行われた。各グループの情報交換では、職場環境の改善やSNSの活用方法が話題に上がることが多く、諸経費高騰や赤身肉需要への対応のほか、「競争ではなく協調を」といった声など、次世代につなぐため、現在の環境に即した意見がきかれた。

ブロック活動報告では、東北・北海道ブロックの吉田昌永ブロック長、関東・甲信越ブロックの加賀田知治ブロック長、京浜ブロックの荒井太郎ブロック長、東海ブロックの佐藤剛ブロック長、近畿ブロックの岸本七江ブロック長、九州・沖縄ブロックの野上幸平ブロック長がそれぞれの活動内容を紹介。続いて、海外視察報告では永谷武久副会長が、このほど行われたシンガポール視察について、視察内容や訪問先の説明、同国を視察先に選んだ理由、同国の食肉輸入状況を交えつつ、日本での和牛需要などの展望を話した。

次に、独立行政法人家畜改良センターの入江正和理事長が講師を務め、「流通に役立つ食肉科学の話」と題した講演を実施。肉食を一つのテーマとして、肉食を決める要因、食味や匂い、風味、ドリップロスとの関連性のほか、見栄えが重要視される日本での流通・



消費における重要性を説明した。さらに、脂肪交雑についても科学的アプローチを基にして、育種改良による脂肪含量への影響などを解説。脂肪交雑の偏重が多く見受けられる現在の生産方針と、流通における需要・トレンド、飼料高などの現環境とを照らし合わせながら、多様な食肉生産が流通面での利益につながることを主張した。

その後、来賓として農水省畜産局食肉鶏卵課の香川仁志課長補佐、全国食肉事業協同組合連合会の村上幸春会長、栃木県食肉事業協同組合連合会の綱川雅之会長が祝辞を述べた。

専門分科会論文表彰も行われ、最優秀賞に滋賀支部の西居義裕氏、優秀賞には名古屋支部の杉本佳隆氏、仙台支部の加藤孝士氏の論文を選出。永谷副会長は最優秀論文に関して「消費者ニーズの変化をテーマに、健康志向や環境志向、料理提案など、あらゆる分野で若い経営者の視点でレポートしていた」と講評した。

全国会議の終了後には別室で懇親会が行われ、参加者が親睦を深めながら、それぞれに意見・情報を交換。次回開催地でもある京浜ブロックの荒井ブロック長によるあいさつで散会した。

## 畜産部会で新たな家畜改良増殖目標の検討状況説明―農水省

農水省がこのほど開催した畜産部会(令和6年度第7回)では、新たな家畜改良増殖目標(第12次)の検討状況について説明が行われた。

同審議では、畜種別の研究会を開催。課題と方向性(案)を議論している。

【肉用牛】課題として、生産現場の多くでは、脂肪交雑を重視した和牛生産となっている中で、消費者ニーズは多様化しており、和牛全体での近交係数が上昇し、遺伝的多様性の喪失が懸念されている。また、飼料価格の高止まりなどにより生産コストが増加する一方、牛肉需要の減退により枝肉価格は低迷しており、より効率的な肉用牛生産が必要である。

方向性案のうち、能力に関する目標では、脂肪の質など食味の向上に重点を置いた畜種の選抜・利用の推進や分娩間隔の短縮や性成熟を踏まえた初産月齢の適正化などを推進すること、生産コスト低減の観点から飼料利用性に関する指標化・実用性に向けた検討を推進することが示されている。

また、能力向上に資する取り組みに関しては、食味、繁殖性、飼料利用性、生時体重や日齢枝肉重量といった、発育に関する形質など新たな改良形質に着目したゲノミック評価や種雄牛造成などを推進し、広域流通される種雄牛は、希少系統の繁殖雌牛群から希少系統種雄牛を造成するなど、遺伝的多様性に配慮すること、さらには多様な肥育形態の1つとして、短期肥育・早期出荷の普及に向けた実証に取り組み、生産現場への定着を推進することが盛り込まれている。

【豚】課題として、家畜伝染性疾病による遺伝資源喪失リスクが高まっており、食料の安全保証の観点からも国内で遺伝資源を確保し、純粋種豚の改良体制を維持していくことが重要である。産肉能力についてはわが国で求められているニーズに対応しつつ、食味も含めた肉質のさらなる改良が必要。また、コスト削減に資する改良や衛生管理の取り組みを推進する必要がある。

方向性案のうち能力に関する目標では、1腹あたり

育成頭数の向上に着目した改良を進めることや、肢蹄の強健性や他の産肉形質への影響を考慮しつつ増体性に着目した改良を進めるとともに、デュロック種においては、ロース芯への脂肪交雑の高い集団の作出・利用を推進し、体型のうち肢蹄に関する評価指標については、普及に向けたデータの収集・分析や改良現場での活用を推進していくことを示している。

能力向上に資する取り組みについては、改良体制の強化を通じて、純粋種豚の多様性を維持しつつ、能力向上と優良な育種素材の活用を推進。さらに、アニマルウェルフェア指針に配慮した飼養管理や、ICT技術などを活用した飼養管理の実施、グループ生産システムなどを活用したオールイン・オールアウトの導入等の推進などを上げている。

【鶏】課題として、多様な消費者ニーズに対応した鶏卵・鶏肉の安定供給と生産コストの低減などに資するため、国産鶏種の改良・増殖等に引き続き取り組むことが必要。輸入規制などのリスクに備え、国内育種資源の多様性および選択肢の確保ならびに外国種鶏の国内における安定供給が重要である。

方向性案のうち、能力に関する目標として肉用鶏(ブロイラー)では、生産コストを低減するため、飼料要求率と育成率の改良を推進。国産鶏(地鶏など)では、特色ある品質を保持しつつ、合理的な価格水準での供給が図られるよう生産コストの低減を推進することが示されている。

能力向上に資する取り組みでは、遺伝資源の保存や改良増殖に資する始原生殖細胞(PGCs)の保存等技術の習得および普及体制について関係者間で相互に補完できるよう、体制の構築や、国産鶏の独自性に配慮し、生産性の向上を図るため、攻撃性などを低減させる改良手法を探索するとしている。

なお、今後のスケジュールについては、令和7年1月に第2回畜種別研究会を行った上で、畜産部会に報告し、3月下旬に「新たな家畜および鶏の家畜改良増殖目標」を公表する。

## 通期見通し変更なし スターゼンが2025年3月期決算説明会を開催

スターゼンは18日、オンラインで2025年3月期中間決算説明会を開催した。会見には横田和彦社長(写真)、森上倫輔執行役員財務経理本部長らが出席した。会見ではまず森上本部長が中間決算の概要についておおむね次のとおり説明。

中間決算の売上高については、小売、外食を中心に需要が堅調に推移し、特に輸入牛肉は円安の影響が大きく、仕入コストの上昇分を価格に反映させた結果、2134億円(前年同期比5・1%増)と増加した。しかし、売上総利益は相場上昇で利益確保に苦慮した。また人件費および物流費などの増加により営業利益は減少。持分法投資利益の減少および支払利息の増加の影響を受け、経常利益は36億円(23・0%減)と減少した。食肉需要は堅調で、ハンバーグやローストビーフなど加工食品も順調で利益に貢献したが、コスト増を吸収し切れなかった。中間期の売上高は103億円の増収となった。国産食肉のうち、牛肉は台湾を中心に輸出が好調で増収、豚肉は相場高で量は減ったが売り上げは伸び、国産食肉全体で30億円、前期比3・7%増。輸入食肉は販売に苦慮しているが、外食需要が堅調であり、販売単価も上がったことから6%増となった。加工食品は好調で10・3%増となったが、ハム・ソーセージは価格改定や商品の見直しを行った結果、7億円減だった。売上総利益は和牛の輸出と加工食品販売が好調で、輸入食肉は減少。営業利益はコスト高から0・3%減となった。経常利益については、持分法投資利益が減少、税引後利益は9億円の減少となった。コスト高の価格転換に努めたが、販管費の増加や持分法投資利益の減少が響いた。

続いて横田社長が通期業績予想、中期経営計画の進捗状況、資本収益性向上への取り組みについて、おおむね次のとおり説明を行った。

通期の経常利益は108億円を見込んでいるが、中間期の経常利益はその34%の到達率だった。しかしこれから、年末年始へ向けた国産牛肉の販売増、輸出拡大に比例した利益増、高付加価値商品の需要期に入ること、副生物の販売拡大、持分法適用会社の業績大幅改善見込み、不動産販売などにより、通期の見通しは達成できるとみている。このうち副生物に



については自社で処理工場をもち、新鮮な内臓や副生物類の販売が可能という強みがある。

中計については今期が2年目で、取り組みを加速させていく。成長投資を確実に実施し、見直しは予定していない。中計のテーマは「事業構造の再構築とサステナブルな事業運営」としている。これには三つの方針があり、①新規事業への挑戦②国内事業改革③サステナビリティ経営と経営基盤強化がそれである。

主な投資としては、海外事業の積極展開で和牛や豪州Wagyuを軸に拡大していく。ターゲットは成長著しい東南アジア、マーケットボリュームが大きい中国だ。国内では、和牛は安価な部位しか動かず、各社ロースやヒレの販売に苦慮している。しかし、海外ではそれが売れ筋になる。当社は51カ国・地域へ輸出が可能である。今後、和牛の輸出拡大へ向け、設備を刷新することにより生産性を向上させる。海外のユーザーを招き、当社の施設を視察してもらっており、海外におけるファンを増やしている。また、海外で生産した物を海外で販売する。豪州事業は既存事業とのシナジー効果を発揮するのに最適だ。生産の安定性と柔軟性を高めていく。販売では、いかに現地のニーズに合わせた供給ができるか。拡大する焼き肉スペックやスライス物需要の拡大に対応していく。さらに、得意先の海外進出の支援も行っている。また、主に東南アジア圏の企業との提携も進める。需要変化に的確に対応していきたい。

そのほか、物流業務の効率化を図る。東扇島物流センターを新設し、関西の伊丹営業センターも新築移転する。さらに、高付加価値商品の取り組みを拡大していきたい。

## スターゼンがファミリーデーイベントを加世田工場で開催

スターゼンは17日、社員ならびにその家族、近隣高校、南さつま市役所関係者を招き、ファミリーデーイベントをスターゼンミートプロセッサー加世田工場で開催した。企業にとって一番の財産といえる「従業員」が安心して働いて力を発揮するのは家族の支えがあるからこそであり、同イベントはその家族に職場を知ってもらい、より一層の理解を深めてもらうことで、スターゼンのファンになってもらい、従業員のエンゲージメントを高め、さらには、社員ならびに社員家族同士のコミュニケーションを図ることを目的としている。今年の7月には、品川本社でもファミリーデーイベントを開催した。今回のイベントでは、工場だからこそできるプログラムとして、食肉マイスターによる見応えのある豚枝肉のカット実演のほか、会社やブランドの紹介を行う展示ブース、商品試食や即売会などが2部制で行われ、関係者を含め約300人の参加者が集まり会場はにぎわいをみせた。

初めに、ポーク棟内の見学に合わせて、マイスター2人によるカット実演を披露。各部位を整形までカットイングし、迫力のある演出に、会場には拍手が響きわたった。

展示ブースでは、取り扱いブランドや工場に勤務する食肉マイスターの紹介などのパネル、理念体系の刷新に伴い18年前ぶりに新調したユニフォームの展示のほか、商品が出荷するまでの作業工程が分かる映像などが放映された。

また、半世紀を超える関係を築いているマクドナルドのブースも設けられた。スターゼンでは、自宅から離れた病院に入院・通院している子供と家族のための滞在施設「Donald・MacDonald・ハウス」の活動に賛同し、食材を提供するなど、ボランティア活動にも積極的に参加している。

試食会では、「さつまビーフ」の焼き肉や「氷感熟成豚」のトンカツをはじめ、ハンバーグ、骨付きソーセージ、ローストビーフなどが提供された。同社では、マイナス温度帯のまま肉を凍らせずに熟成させる「氷感庫」を導入しており、氷感庫内で熟成させた食肉を「氷感熟成」商品として販売している。熟成させることで、うまみ成分であるアミノ酸値がアップし、うまみやコクのある、おいしく軟らかい食肉となる。試食会では、「氷感



熟成豚」のトンカツが大変好評だった。このほか、イベントに参加した高校生以下を対象としたシールラリーも催された。

さらに、終了後には、試食会で提供された商品の即売会を実施し、盛大のうちに終了した。

加世田工場の清水龍三工場長(上写真右)は、「イベントを開催する上で、食品工場として、衛生基準が崩れないように進めていくことは大変だったが、社員や参加していただいたご家族の笑顔を見ることができて、心からやってよかったと思えた」とし、「今回、来年度採用の高校生にも参加してもらっている。入社前に会社のことを知ってもらう良い機会にもなった。ここで働いて良かったと思ってもらえる企業であることは、当社の経営理念であるので、今後もそれを目指していきたい」と語った。

## カナダポークがカナダミート協議会所属の組織に、 新プレジデントにホワイト氏

1991年に全カナダ豚肉生産者団体であるカナダポーク協議会(CPC)と全カナダ食肉加工業者団体であるカナダミート協議会(CMC)の共同経営でカナダポーク販売促進団体として設立されたカナダポーク。今年10月に大きな組織変更が行われ、カナダポークはCMCに属する組織として、新たな体制で再スタートを切った。プレジデント&CEOには、CMCのプレジデント&CEOでもあるクリストファー・ホワイト氏(写真)が就任。トレバー・シアーズ前プレジデント&CEOは退任し、CPCで活動することになった。

ホワイト氏はこれまで長年にわたり、政府関係機関に勤務した経験を持つ。今回の就任にあたり、「これまでCMC、CPC、カナダポークは緊密に協力し、メンバー、政府、そして業界全体に提供する価値を高めてきた。カナダポークがCMCに統合され、より戦略的な

一步を踏み出すことになる」と説明。「私自身、CMCにおける現在のリーダーの役割を続けながら、カナダポークのリーダーとなることには、非常にやりがいを感じている。業



ホワイト氏

界の成長と政府やステークホルダー、そして消費者の声に応えるよう努力していきたい」と意欲をみせる。新体制の下、カナダポークはより強固な組織として、日本を含む世界の市場において、マーケティング活動を進めていく。

## 大阪市場で徳島県肉牛共励会を開催、 丸富精肉店が和牛、交雑とも最優秀賞牛を購入

令和6年度第62回徳島県肉牛共励会が15日、大阪市中央卸売市場南港市場で開催された。歳末の商戦に向けて厳選された上質な枝肉30頭(黒毛和牛13頭、交雑牛17頭)が出品され、厳正な審査の結果、黒毛和牛の部は北谷昌也さん、交雑牛の部はノースバレー(株)の出品牛がそれぞれ最優秀賞の栄誉に輝いた。

黒毛和牛の出品枝肉13頭は全てA4以上に格付され、うち5等級は9頭。その中で栄えある最優秀賞を受賞した雌牛の枝肉は、父が「貴隼桜」、2代祖「美国桜」、3代祖「菊福秀」の血統で枝肉重量は547.6kg。ロース芯面積が82cm<sup>2</sup>、バラ厚8.8cmとバランスの良い枝肉であり、A5等級、BMS



No.12に格付された。交雑牛の最優秀賞牛は枝肉重量520.0kg、ロース芯面積が66cm<sup>2</sup>、バラ厚7.7cm、B4等級、BMSNo.7の枝肉であった。

また、枝肉競りでは黒毛和牛の最優秀賞牛がキロあたり2701円、交雑牛の最優秀賞牛は1851円でいずれも丸富精肉店が買い受けた。最優秀賞牛以外の入賞牛出品者は次のとおり。

【黒毛和牛の部】▷優秀賞 (有)阿波キャトル(2302円、エスフーズ)▷優良賞 (株)ICO(2206円、エスフーズ)【交雑牛の部】▷優

秀賞 義岡ファーム(株)(丸富精肉店、1756円)▷優良賞 立田牧場(1741円、(株)三嶋亭)

## 食肉販売動向調査「24年上半期実績と下半期の見通し」⑤ 「量販店の動向」

24年度上半期の量販店における食肉取扱割合の実績(重量ベース)は、牛肉が26%、豚肉が44%、鶏肉が30%となった。前期(23年度下半期)と比較すると、国産豚肉が1ポイント増加し、牛肉が1ポイント減少したものの、おおむね同傾向となった。

24年度上半期の量販店における食肉販売量の増減割合について、前期(23年度下半期)との比較では、牛および国産鶏肉は「増加」が多かった一方、輸入牛肉および輸入豚肉は「減少」が多かった。なお、それ以外の区分では「同程度」が最も多かった。特に、和牛で50%、国産鶏肉で70%が「増加」となっており、その増加割合をみると、和牛は「5~9%」、国産鶏肉は「5%未満」が最も多かった。増加理由については、和牛は「販促強化」が最も多く、次いで「輸入との需要シフト」および「値下げの影響」が多く、国産鶏肉は「販促強化」および「消費者の低価格志向」が最も多かった。一方、輸入牛肉で75%、輸入豚肉で60%が「減少」となっており、その減少割合をみると、いずれも「マイナス10%台」が最も多かった。減少理由については、輸入牛肉および輸入豚肉は「値上げによる影響」が最も多く、次いで「原価高」が多く挙げられた。

24年度上半期の量販店における輸入牛肉の取扱割合は、豪州産が56%で最も多く、次いで米国産が37%、カナダ産が6%、ニュージーランド産が1%となった。前期(23年度下半期実績)の取扱割合と比べ

ると、米国産が2ポイント増加した一方、豪州産が同率、カナダ産およびニュージーランド産がそれぞれ1ポイント減少した。

24年度上半期の量販店における輸入豚肉の取扱割合は、カナダ産が51%で最も多く、次いで米国産が41%、スペイン産が7%、メキシコ産が1%となった。前期(23年度下半期実績)の取扱割合と比べると、カナダ産が5ポイント増加した一方、米国産が2ポイント、スペイン産、メキシコ産およびチリ産が1ポイント、それぞれ減少した。

24年度上半期の量販店における仕入価格の実績について、前期(2023年度下半期)との比較では、交雑牛、輸入牛肉、国産・輸入豚肉で「上昇」が最も多く、特に、輸入牛肉、国産・輸入豚肉は「上昇」がそれぞれ100%であった。一方、和牛および国産鶏肉でのみ「低下」があり、それぞれ45%であった。24年度上半期の量販店における小売価格の実績について、前期(23年度下半期)との比較では、輸入牛肉および国産・輸入豚肉で「値上げした」が最も多かった一方、その他のすべての区分で「同程度」が最も多かった。仕入価格と小売価格を比較すると「上昇」と回答した者の割合は、小売価格の方が少なくなっており、交雑牛、乳用牛、輸入鶏肉で比較的少ない傾向となった。また、「低下」と回答した者の割合は、和牛および国産鶏肉で小売価格の方が少ない傾向となった。(続く)

## 松のや、史上最重量級のロースかつ「極厚ロースかつ定食」発売

(株)松屋フーズ(東京都武蔵野市、瓦葺一利社長)は、トンカツ専門店の「松のや」においてこのほど、「極厚ロースかつ定食」(税込み1190円)を発売開始した。

「超厚切りロース」を超えた、200gの満足感、大ボリューム、圧倒的な食べ応えを誇る「極厚ロースかつ」が登場。同店のトンカツは、熟成チルドポークを使用、特製生パン粉が際立つサクッと香ばしい同店自慢の看板メニュー。12種類の香辛料と野菜・果実を熟成させた特製ソースも用意しているので、好みに合わせ

て食べられる。

ロースかつのトッピングレギュラーメニュー「鬼おろしポン酢ロースかつ」「味噌ロースかつ」のほか、高タンパク低脂肪のササミを使用した「ささみかつ」との「盛合せ定食」、特製和風ダシとたっぷりふわふわ玉子で綴じた「極厚ロースかつ丼」、スパイシーで奥深く、ロースかつに合ううまみを感じられる黒カレーと相性抜群「極厚ロースかつ黒カレー」など、バラエティー豊かにラインアップ。ロースかつの2.5倍の同商品で、豚肉のうまみをより味わうことができる。

## 【輸入副生物現物相場】 気温同様に引き合いは地域でまちまち、年末にかけてジリ高か

全国的には平年より暖かい日が続いているが、北日本では気温が10度を下回るなど、地域によって寒暖の差は大きいようで、食肉の売れ行きもまちまち。西日本では気候が安定しているため、外食や行楽需要向けの引き合いも。また、月末にかけて年末商戦向けの手当ても少しずつ積み増してくる事業者もあるようで、低調な動きが続いてきたアウトサイドスカートも、少し価格が下がったことでわずかに動きが良化しつつあるようだ。タンもそこそこだが、ムキタンは堅調。白物は鍋物シーズンの本番を迎え、ラージ・スモールともしつかり。テール、メンブレンも品薄感が強い。年末にかけて相場は大きな上昇は考えにくいだが、各社とも在庫水準は高くなく、来月の繁忙期に向けて主要アイテム中心にジリ高の展開か。

	商品名	原産地	規格	価格	気配
フロロズン	牛タン	米国		2600~	↑
		豪州	グラス	2300~2500	↑
		欧州	グラス	2200~2400	↑
	ハンギングテンダー (サガリ)	米国	チョイスプライム	1800~	↓
		メキシコ		-	-
	アウトサイドスカート(ハラミ)	米国	チョイスプライム	2800~3000	→
		メキシコ		-	-
	シンスカート、シックスカート	豪州	バルク	1150~	↑
	シンスカート(皮なし)	豪州		1800~	↑
	レバー	豪州		320~	
		米国		350~	→
	トライブ	-	1.5UP	-	→
		豪州	700gUP 500gUP	-	→
	スモール	米国		500	↑
	ラージ	米国		620~690	↑
豪州			680~700	↑	
アキレス	米国		1200	↑	
テール	豪州		1400~1600	↑	
メンブレン	豪州		600~	↑	
チルド	牛タン	米国	グレイン	2900~3000	↑
		豪州		2700~3000	↑
	牛タン(ムキタン)	米国		4800~5000	↑
		豪州		-	→
	ハンギングテンダー (サガリ)	米国	チョイス	1800~2000	→
			プライム	2200~2500	→
アウトサイドスカート(ハラミ)	米国	チョイス	3200~3300	→	
		プライム	3600~	-	
	メキシコ		-	→	

## コーンテック、「BROCK 飼料貯蔵タンク」取り扱い開始

(株)コーンテック(熊本県熊本市、吉角裕一朗社長)はこのほど、自家配合飼料を導入する手段として、とうもろこし、飼料米などの保存に最適なタンク「BROCK 飼料貯蔵タンク」(BROCK HOPPER BINS社製)の取り扱いを開始した。世界情勢の急激な変化に伴い、畜産飼料を国産化する流れが起こる中、穀物を飼料として活用する場合、保存する大型タンクが必要不可欠である。同社では「循環型エコシステム」をビジョンに、輸入に頼らない地産地消の国産飼料を推進している。

通常、貯蔵管理を行わない飼料・飼料原料は温度や湿気(カビ)などによる外的要因より、早い段階で劣化が生じる。同商品を活用することにより、高水準での温度・湿度管理が行え、飼料残量の管理も可能となる。また設置面積も少なくすむため、狭い土地に

も大量の飼料を保管管理できる。さらに事業規模に対応した幅広い貯蔵サイズ(6~180t)を展開し、事業者の幅広い保管ニーズに対応するよう設計されており、穀物管理の向上が期待できる。

同社では同商品を導入した畜産自家配合施設を設計し、飼料用米・飼料用とうもろこし・エコフィードを活用した飼料生産を行っている。さらにシステムによる自動化を実現。24時間自動化での飼料生産は、実質無人で稼働でき、大幅な省力化が可能となる。飼料生産において飼料および飼料原料の保存における飼料価値低下の防止は必須であり、同時に飼料残量管理の自動化は、飼料原料のロスをなくし大幅なコスト削減にもつながる。今後も同社では自家配合施設を用いて畜産業界の飼料コスト・人材不足問題を解決し、新しい畜産を推進するとしている。

[資料] 日本食肉流通センター週間市況 〈和牛・交雑牛・乳牛チルド〉

(令和6年11月3日～11月9日)

(単位:キロ当たり円、税込み、重量kg)

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量	
		和牛チルド「4等級」	首都圏	カタロース	4,053	4,143		4,320	4,117	7,241	近畿圏	3,317	3,824
カタ	3,361			3,447	3,980	3,518	8,579	3,408	3,581	4,158		3,688	6,646
カタバラ	2,160			2,268	3,240	2,358	3,058	2,176	2,236	2,405		2,241	1,311
マエセット	3,888			3,888	3,888	3,888	1,363	-	-	-		-	-
ヒレ	9,169			9,344	10,573	9,486	1,488	8,856	9,720	10,135		9,628	2,133
ロイン	4,860			5,860	6,154	5,614	1,832	5,076	5,724	6,048		5,608	4,424
ロインセット	6,078			6,078	6,250	6,135	3,281	-	-	-		-	-
トモバラ	1,944			2,217	2,586	2,331	14,376	1,836	2,506	3,240		2,535	10,307
ウチモモ	3,942			4,184	4,419	4,185	2,469	3,729	4,039	4,104		3,957	2,055
シントアマ	3,888			4,107	4,334	4,130	2,223	3,795	4,104	4,158		4,020	1,791
ランイチ	4,020			4,149	4,374	4,173	2,485	3,907	4,092	4,104		4,049	2,132
ソトモモ	3,402			3,920	4,074	3,835	4,176	3,507	3,629	3,740		3,627	1,171
スネ	1,905			1,998	2,200	1,997	3,766	1,963	2,117	2,181		2,110	3,157
モモセット	3,901			4,128	4,203	4,122	15,310	3,250	3,564	3,834		3,548	12,663
セット	3,342	3,618	4,289	3,739	30,144	3,240	3,672	3,923	3,592	11,018			
重量合計						101,791						62,326	
和牛チルド「4等級」	中京圏	カタロース	-	-	-	-	957	九州圏	-	-	-	-	872
		カタ	3,240	3,456	3,672	3,502	1,569		3,348	3,456	3,586	3,461	1,249
		カタバラ	2,052	2,657	2,750	2,490	1,595		-	-	-	-	334
		ヒレ	-	-	-	-	524		-	-	-	-	195
		ロイン	-	-	-	-	481		-	-	-	-	183
		トモバラ	1,620	1,836	2,052	1,822	1,726		1,566	1,944	4,126	2,637	1,565
		ウチモモ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	136
		シントアマ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	532
		ランイチ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	224
		ソトモモ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	199
		スネ	-	-	-	-	-		-	-	-	-	619
		モモセット	3,676	3,748	3,888	3,755	1,346		-	-	-	-	-
		セット	3,637	3,637	3,637	3,637	4,506		3,235	3,456	3,916	3,494	3,340
		重量合計							12,704				

(令和6年11月3日～11月9日)

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量	
		交雑牛チルド「3等級」	首都圏	カタロース	2,683	2,862		3,240	2,945	9,184	近畿圏	2,808	2,945
カタ	2,430			2,636	3,083	2,711	8,256	2,268	2,452	2,592		2,441	11,108
カタバラ	2,284			2,679	3,093	2,641	3,080	1,404	1,543	2,109		1,631	3,354
ヒレ	5,832			6,292	6,480	6,263	2,451	6,264	6,588	6,804		6,580	2,955
ロイン	3,934			4,092	4,385	4,147	2,001	4,298	4,632	4,860		4,658	6,539
トモバラ	1,485			2,484	2,997	2,222	11,204	1,512	1,728	2,670		1,898	9,328
ウチモモ	2,398			2,484	2,646	2,487	3,755	2,376	2,470	2,600		2,473	4,659
シントアマ	2,430			2,592	2,899	2,623	4,302	2,376	2,592	2,700		2,550	4,662
ランイチ	2,592			2,678	3,024	2,736	3,181	2,465	2,592	2,700		2,570	5,117
ソトモモ	2,106			2,214	2,241	2,189	2,599	2,160	2,268	2,446		2,274	4,148
スネ	1,512			1,566	1,620	1,575	2,666	1,458	1,512	1,621		1,530	6,661
モモセット	-			-	-	-	-	2,484	2,679	2,873		2,648	7,825
セット	2,742			3,059	3,348	3,066	28,999	2,549	3,024	3,266		2,975	35,521
重量合計								81,678					

		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量		第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み 平均値	取引重量	
		乳牛チルド「3等級」	首都圏	カタロース	2,886	3,064		3,240	3,059	5,274	近畿圏	2,338	2,592
カタ	1,836			1,919	2,182	1,950	1,004	1,582	1,728	1,992		1,743	5,547
カタバラ	-			-	-	-	52	-	-	-		-	-
三角バラ	-			-	-	-	-	2,624	2,754	3,456		2,884	1,250
ブリスケット	-			-	-	-	-	1,080	1,150	1,404		1,160	4,318
ヒレ	4,887			5,184	5,400	5,119	2,202	4,644	4,860	5,624		4,952	2,680
ロイン	3,082			3,115	3,346	3,145	1,271	2,780	3,453	3,942		3,359	3,314
トモバラ	1,242			2,247	2,697	2,141	5,902	1,171	1,413	2,023		1,516	5,637
ウチモモ	1,944			2,160	2,484	2,177	2,782	1,885	1,922	2,009		1,934	6,398
シントアマ	1,944			1,955	2,160	2,000	2,146	1,728	1,728	1,890		1,768	2,866
ランイチ	1,836			1,955	2,267	1,992	1,873	1,582	1,836	2,009		1,838	3,635
ソトモモ	1,836			1,836	1,998	1,850	1,121	1,836	1,944	2,268		1,995	2,630
スネ	1,469			1,506	1,512	1,491	2,710	1,404	1,512	1,555		1,486	5,085
セット	2,406			2,700	2,700	2,641	11,678	1,769	1,967	1,979		1,907	28,224
重量合計				合計		38,015				合計		79,966	

# 東京・大阪枝肉相場、全国と畜頭数

[東京食肉卸売市場] 11月18日  
枝肉卸売価格(瑕疵除く)(頭、1kg当たり円、税込み)

◇牛生体		5	4	3	2	1	
和牛	雌 A	高値	7,166	3,429	-	-	-
		安値	2,377	2,000	-	-	-
		平均	3,460	2,551	2,228	-	-
		頭数	224	24	1	-	-
	雌 B	高値	-	-	-	-	-
		安値	-	-	-	-	-
		平均	-	-	-	-	-
		頭数	-	-	-	-	-
	去 A	高値	3,000	2,435	-	-	-
		安値	2,190	2,300	-	-	-
		平均	2,559	2,370	2,053	-	-
		頭数	43	8	1	-	-
去 B	高値	-	-	-	-	-	
	安値	-	-	-	-	-	
	平均	-	-	-	-	-	
	頭数	-	-	-	-	-	
乳牛	雌 B -頭	平均	-	-	-	-	
	雌 C -頭	平均	-	-	-	-	
	去 B -頭	平均	-	-	-	-	
	去 C -頭	平均	-	-	-	-	
交雑牛	雌 B	平均	1,786	1,690	1,501	1,409	-
		頭数	3	13	17	8	-
	雌 C	平均	-	1,549	-	1,229	-
		頭数	-	2	-	1	-
	去 B	平均	-	1,616	1,509	1,297	-
		頭数	-	5	3	1	-
	去 C	平均	-	1,438	1,365	-	-
		頭数	-	3	1	-	-

	牛	豚	搬入牛	搬入豚		その他
と畜	429	1,097	-	(競り)	(対)	
売買	429	1,003	189.5	-	12	58

◇牛搬入		5	4	3	2	1
和 雌	A	2,370	1,658	1,414	1,266	-
	B	-	1,648	1,410	846	-
和 去	A	2,774	2,216	-	1,029	-
	B	-	-	-	1,043	-
乳 雌	B	-	-	-	921	823
	C	-	-	-	871	796
乳 去	B	-	-	-	-	-
	C	-	-	-	-	-
交 雌	B	-	1,616	1,508	1,387	-
	C	-	1,406	-	1,300	-
交 去	B	-	1,804	1,491	1,429	-
	C	-	-	1,385	1,327	-

◇豚		[極上]	[上]	[中]	[並]	[等外]
生体	高値	605	896	918	896	918
	安値	562	536	508	464	378
	平均	576	550	554	563	503
	頭数	( 3)	( 415)	( 325)	( 115)	( 145)
搬入競り	高値	-	-	-	-	-
	安値	-	-	-	-	-
	頭数	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
搬入対	高値	-	-	581	558	537
	安値	-	-	580	548	483
	平均	-	-	581	552	519
	頭数	( -)	( -)	( 2)	( 5)	( 5)

[大阪食肉卸売市場] 11月18日  
枝肉卸売価格(生体)(1kg当たり円、税込み) [ ] は豚規格

	5 [極上]	4 [上]	3 [中]	2 [並]	1 [等外]
和 雌 A	2,467	2,278	1,981	-	-
(頭数)	( 7)	( 4)	( 1)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
和 去 A	2,442	-	-	-	-
(頭数)	( 1)	( -)	( -)	( -)	( -)
B	-	-	-	-	-
(頭数)	( -)	( -)	( -)	( -)	( -)
乳 去 B	-	-	-	-	-
交雑雌 B	1,998	1,783	1,519	1,502	-
C	-	-	1,585	-	-
交雑去 B	1,955	1,797	1,678	1,458	-
C	-	1,865	1,580	1,555	-
豚	-	593	522	473	464

[全国と畜概算頭数]  
農水省統計部発表 (頭)

	11月18日	11月15日	(11月累計)
豚	67,700	66,600	758,100
成牛計	5,410	5,030	54,750
和牛雌	1,350	1,470	13,870
和牛去勢	1,700	980	14,660
乳牛雌	430	900	8,080
乳牛去勢	520	410	5,560
交雑雌	620	640	5,900
交雑去	790	600	6,540

[去勢牛 B3・2 規格 枝肉取引価格] 11月18日

東京	1,455円(前日 1,455円)
大阪	1,611円(前日 1,569円)

[豚・全農建値] 11月18日

上	中	取引頭数	市況
558円	542円	1158頭	弱もちあい

と畜	牛	豚	牛概況	もちあい
売買	128頭	68頭	豚概況	続伸
	60頭	130頭		

# 各地の豚枝肉、豚部分肉、食鳥相場

[主要市場豚枝肉卸売価格] 11月18日 (1kg当たり円、税込み)

	上加重 (前日)	中加重 (前日)	と畜	上場	市況
北海道 [セ]	594 (594)	- (-)	5,750	-	もちあい
仙台 [中]	589 (576)	536 (516)	374	34	続伸
宇都宮 [地]	577 (615)	556 (586)	1,786	61	反落
茨城 [地]	556 (569)	540 (547)	1,366	606	反落
群馬 [地]	546 (559)	484 (462)	2,315	468	下押し
さいたま [中]	552 (559)	535 (551)	216	215	続落
東京 [中]	550 (564)	554 (547)	1,097	1,003	急落
横浜 [中]	573 (568)	538 (548)	650	654	続伸
山梨 [地]	- (-)	- (-)	134	61	-
浜松 [地]	551 (537)	473 (448)	302	39	上伸
名古屋 [中]	589 (593)	547 (556)	914	278	弱もちあい
京都 [中]	594 (625)	566 (591)	102	93	もちあい
大阪 [中]	593 (573)	522 (556)	68	114	続伸
神戸 [中]	- (593)	- (580)	150	-	上場なし
岡山 [地]	679 (671)	639 (638)	304	331	強含み
広島 [中]	572 (573)	543 (539)	287	97	もちあい
福岡 [中]	568 (566)	533 (532)	444	89	もちあい

注：北海道はホクレン大卸売価格で、前日の全道と畜頭数。

[日本食肉流通センター] 11月11日～11月17日  
豚カット肉 [I] (1kg当たり円、税込み、重量kg)

◇首都圏 総重量 1,543,895 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,166	1,241	1,309	1,233	75,927
うで	717	775	822	780	124,593
ロース	1,058	1,163	1,231	1,152	132,205
ばら	1,184	1,286	1,364	1,300	156,878
もも	756	782	808	782	208,671
ヒレ	1,218	1,271	1,430	1,305	10,913
セット	929	1,030	1,056	1,017	834,708

◇近畿圏 総重量 709,386 kg

	第1四分位値	重量中央値	第3四分位値	刈込み平均値	取引重量
肩ロース	1,156	1,258	1,291	1,250	62,971
うで	713	747	810	750	114,685
ロース	1,030	1,188	1,274	1,173	97,971
ばら	1,253	1,298	1,337	1,292	125,041
もも	702	744	775	741	159,816
ヒレ	1,099	1,225	1,296	1,219	9,251
セット	899	1,021	1,066	995	139,651

[食鳥正肉日経相場] 11月15日  
荷受売値平均値 (kg当たり円、税抜き)

◇東京 (7社) ※木曜日は休載

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	646	689	801	172
ムネ	359	389	499	144

◇大阪 (3社)

	安値	加重平均	高値	販売量 (t)
モモ	654	715	990	9
ムネ	366	417	550	6

[農水省統計情報部食鳥市況] 11月15日  
kg当たり円、税抜き

	モモ肉	ムネ肉	手羽モ	手羽サ	ササミ
高値	940	603	550	600	650
安値	665	374	290	360	350
平均	705	404	-	-	-

※日本食肉流通センター：①数値はすべて記載日中間（1週間分）に収集した累積データをもとに算定しており、直近1週間の状況を示している。②重量ベースでみた価格の分布。代表値は「重量中央値」であり、参考値として「第1四分位値」「第3四分位値」「刈込み平均値」を算定。③収集した取引価格データ（単価・重量）を単価の低いものから順に並べ替えた上で取引重量を累積し、総取引重量のちょうど50%に位置する単価を「重量中央値」。最低価格から順に累積したデータを4等分し、最初の境界に位置する単価を「第1四分位値」3番目の境界に位置する単価を「第3四分位値」という。「刈込み平均値」は、第1四分位と第3四分位の間の重量ベースの平均値（加重平均値）。

食肉に関する**最新**のニュースを、どこよりも**早く**お届け!

# 日刊食肉速報

## 2024年11月、リニューアル!

A4版にリニューアルして更に見やすくなりました。

また、紙媒体だけでなく、新設されたWEBページでいつでも手軽に情報チェックが可能に。

食肉関連の行政、業界の動向をはじめ、国産と輸入の相場市況、企業情報など、これからも鮮度の高い日々の業界ニュースをお届けいたします。

**紙媒体**

A4版に  
サイズUP!



購読料は  
そのまま!



**WEB  
サービス版**

手軽に情報チェック!  
バックナンバーも  
探しやすい!



\*写真はイメージです。

仕様 | 11ページ  
(表紙)カラー (中面)モノクロ  
発行 | 月曜から金曜(祝祭日を除く)  
購読料 | 1カ年 82,080円(税・送料込)  
6カ月 42,120円(税・送料込)

## 広告スポンサー募集

### 日刊だからこそ、効率的なタイミングでPR!

業界紙として70年の歴史をもつ信頼性の高い本紙にて、広告を出しませんか?  
広告サイズは幅広く対応可能です。ぜひ、貴社のビジネスにお役立てください。

イベント情報など  
スポット告知に最適

ターゲットを絞った  
訴求力の高さ

70年の歴史をもつ  
信頼性の高い業界紙

● 購読・広告掲載に関するお問い合わせ ●

東京支社 ☎ 03-3663-2011 ✉ mail@shokuniku.co.jp

株式会社 食肉通信社